

令和3年度業務実績に関する評価結果に係る対応について

評価結果		対応
<p>No.9 教育（学修成果の評価） 新卒者の国家試験合格率は、看護師、理学療法士及び作業療法士については目標に達したものの、医師は90.0%となり、目標に達しなかった。</p>	<p>・令和4年度の取組 医学部では、医師国家試験と同等レベルの卒業試験を実施するとともに、学生自習室の貸出を再開するなど、学修環境の充実を図った。 [令和4年度実績] 医師：96.2%、看護師：98.0%、理学療法士：94.7%、 作業療法士：95.0%</p>	
<p>No.27 附属病院（病院経営改善に向けた不断の取組） 平均在院日数の短縮化などコンパクト医療が定着したことや高度な医療を必要とする患者の割合が増加したことにより、稼働収入は昨年度を上回ったほか、価格交渉及び低価格薬品群の導入促進を進め、効果的、効率的な医薬品材料費の執行に努めたが、高度医療の提供に伴う高額医薬品の使用量増加などにより、診療収入に対する医薬品材料費の割合は45.5%となり、目標に達しなかった。</p>	<p>・令和4年度の取組 コロナ患者発生に伴う稼働病床数の削減及び入院患者の受入抑制など、通常診療の抑制を強いられた中、平均在院日数の短縮化などコンパクト医療の推進が図られていることや、外来化学療法室の利活用が順調に推移していることもあり、稼働収入は昨年度を上回った。また、価格交渉、低価格薬品群の導入促進及び医薬品材料費比率上昇時の原因分析を行うなど、診療報酬請求事務の強化、効率的、効果的な医薬品材料費の執行に努めた。 ・令和5年度は、引き続き、経営改善方針を着実に推進するなど、改善に向けた取組を実施することとし、年度計画に反映した。</p>	
<p>No.33 社会貢献（地域医療や健康づくり活動等への支援） 地域医療に関する政策立案等の審議会委員就任及び地域の健康づくりのための活動に対する講師派遣について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により依頼が減少した状況においても、オンラインも活用し、依頼に対して積極的に協力したが、目標値に比べ大きな乖離があることから、評価結果を「B」評価（十分に実施していない）とすべきである。</p>	<p>・令和4年度の取組 地域医療に関する政策立案等の審議会委員への就任、地域の健康づくりのための活動に対する講師の派遣を行うとともに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により依頼が減少したが、オンラインも活用して積極的に協力した。 ・令和5年度は、外部の方が本学に依頼しやすい環境の整備（依頼手続きや派遣実績を本学HPへ掲載）、指標・数値目標については、これまでの達成状況を踏まえた課題の整理を行うなど、改善に向けた取組を実施することとし、年度計画に反映した。</p>	

評価結果	対応
<p>No.35 社会貢献（保健医療学部における公開講座等の開催） 保健医療学部において実施する看護、リハビリテーション及び福祉に関する公開講座や高校出前講座については、オンラインも活用して積極的に取り組んだことは評価できる。 しかしながら、地域で勤務する看護、リハビリテーション、福祉等の専門職対象研修会については、目標に達しなかったことから、評価結果を「B」評価（十分に実施していない）とすべきである。</p>	<p>・ 令和4年度の取組 地域貢献推進センター会議において、今年度の地域貢献活動の活動方針や実施内容を決定し、保健医療学部における公開講座等を実施した。 〔令和4年度実績〕 看護、リハビリテーション及び福祉に関する公開講座の開催：5回 高校出前講座の開催：7回 専門職対象研修会の開催：9回</p>
<p>No.38 国際交流及び国際貢献（海外大学等との国際交流の取組） 指標・数値目標である2項目の取組の進捗は、足踏み状態が続いており、最終的な達成が厳しい状況と考えられ、改善に向けた取組を進めることが重要と思われることから、評価結果を「B」評価（十分に実施していない）とすべきである。</p>	<p>・ 令和4年度の取組 オンラインによる国際交流を実施しながら、渡航制限が緩和された下期については、学生の対面による国際交流を2件、高麗大学から招いた講師によるセミナーを1件開催し、国際交流を推進した。 ・ 令和5年度は、海外留学等に関する危機管理体制を強化するとともに、協定校との協定に基づく学術・学生交流事業の早期再開に向け、プログラムの充実を図るなど、改善に向けた取組を実施することとし、年度計画に反映した。</p>
<p>No.46 財務内容の改善（外部研究資金、寄附金その他の自己収入の確保） 科学研究費補助金の申請数について、科学研究費助成事業申請書作成レクチャー及び申請書作成レビューを引き続き実施するなど、補助金申請数の増加に繋げる取組を行ったが、年平均282件となり、目標に達しなかった。</p>	<p>・ 令和4年度の取組 科学研究費助成事業申請書作成レクチャー及びレビュー等、申請書採択率向上に向けた取組を引き続き実施するとともに、インターネット納付による寄附受入、治験センター各部門間の連携強化等、自己収入の更なる確保に取り組む。など、自己収入確保のための取組を進めた。 ・ 令和5年度は、引き続き、外部資金獲得推進委員会において、研究者に対する助成金への応募を促進するなど、改善に向けた取組を実施することとし、年度計画に反映した。</p>